共同研究

（二〇一四年一〇月一日～二〇一五年三月三一日）

昭和戦後期における日本映画史の再構築

（研究代表者　谷川建司、幹事　細川周平）

〔共同研究員名〕

晏妮、板倉史明、井上雅雄、小川順子、木下千花、木村智哉、河野真理江、須藤遙子、冨田美香、中村秀之、西村大志、柳下毅一郎、北浦寛之、長門洋平

〔海外共同研究員名〕

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一四年九月二七日

晏　妮「戦後日本映画とアジア　冷戦下のホリティックスと映画ビジネス」

冨田美香「一九五〇年代京都における映画興行の様態―アトラクションつき映画興行を中心に」

二〇一四年九月二八日

DVD上映『X年後』（伊藤英朗監督、二〇一二年、八三分）

ディスカッション「伊藤英朗監督を囲んで」

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ「X年後：米国パブリック・ディプロマシーと戦後原子力映画」

〈第五回研究会〉

二〇一四年一一月二二日

小川順子「東映時代劇映画における大川橋蔵：東映スター中心主義とファンが作り出した功罪」

長門洋平「映画産業における『サントラ』レコードの諸問

題―初期角川映画と薬師丸ひろ子を中心に」
二〇一四年一一月二三日
資料検討会、出版についての打ち合わせ
〈第六回研究会〉
二〇一五年一月三一日
北浦寛之「大手映画会社のテレビ産業への進出―テレビ映画製作を中心に」
木村智哉「東映動画株式会社における経営危機要因の分析―一九七二年の合理化に至る経緯から―」
二〇一五年二月一日
中村秀之「一九五〇年代日本の映画批評と映画界―変化、連続、亀裂」
〈第七回研究会〉
二〇一五年三月二八日
冨田美香「一九五〇年代京都における映画興行の様態――アトラクションつき興行を中心に――その三（一九五五年以降）」
柳下毅一郎「大蔵貢の新東宝と見世物興行」
西村大志「戦後サラリーマン映画再考―東宝を中心に―」
二〇一五年三月二九日
出版についての意見交換及び今後の共同研究会の枠組のあり方についてのディスカッション

人文諸学の科学史的研究

（研究代表者　井上章一、幹事　瀧井一博）
〔共同研究員名〕
今谷明、上島享、上村敏文、鵜飼正樹、内田忠賢、長田俊樹、小澤実、小路田泰直、斎藤成也、佐藤雄基、関幸彦、高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太郎、永岡崇、林淳、シルヴィオ・ヴィータ、藤原貞朗、安田敏朗、若井敏明、荒木浩、伊東貴之、大塚英志、倉本一宏
〔研究発表〕
〈第二回研究会〉
二〇一四年九月二七日
菊地　暁「人文研探険管見」
斎藤成也「新京都学派の研究：梅棹忠夫『ヨタバナシこそ残るのか』」
二〇一四年九月二八日
井上章一「桑原武夫のある一面」
内田忠賢「人類学京都学派―京大文学部地理学教室との関

わりから」
鵜飼正樹「京都大学文学部哲学科社会学講座と文化人類学の微妙な関係について」
〈第三回研究会〉
二〇一四年一二月二二日
楊　際開「内藤湖南の中国観と清末変法運動」
小澤　実「戦後日本の北欧中世像―山室静・荒正人・谷口幸男」
二〇一四年一二月二三日
井上章一「フランス革命の語り方」

戦争と鎮魂

（研究代表者　牛村　圭、幹事　ジョン・ブリーン）
〔共同研究員名〕
今泉宜子、岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川村覚文、川本玲子、金志映、古田島洋介、小堀馨子、佐伯順子、竹村民郎、等松春夫、永井久美子、西原大輔、眞嶋亜有、吉井文美、吉田（古川）優貴、稲賀繁美、倉本一宏、末木文美士、松田利彦、劉建輝、磯前順一、郭南燕
〔海外共同研究員名〕
徐載坤、平松隆円、堀まどか
〔研究発表〕
〈第二回研究会〉
二〇一四年一一月二二日
古田島洋介「語彙としての『鎮魂』・語義としての『鎮魂』」
栗原俊雄「戦没者遺骨の戦後史～『国土』を中心に」
〈第三回研究会〉
二〇一五年三月二九日
徐　載坤「日本現代詩と鎮魂」
等松春夫「総力戦と音楽―第一次世界大戦とエドワード・エルガー―」

画像資料（絵葉書・地図・旅行案内・写真等）による帝国域内文化の再検討

（研究代表者　劉　建輝、幹事　北浦寛之）
〔共同研究員名〕
安藤潤一郎、井村哲郎、上垣外憲一、岸陽子、呉孟晋、小林茂、姜克実、白幡洋三郎、鈴木貞美、戦暁梅、単援朝、塚瀬進、根川幸男、松宮貴之、森田憲司、李相哲、劉岸

偉、伊東貴之、稲賀繁美、井上章一、松田利彦、森洋久、石川肇、陳其松

〔海外共同研究員名〕

王中忱、徐興慶、孫江

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一四年一二月一二日

石川　肇「内部資料から見る出光の大陸進出」

松宮貴之「吉田茂と台湾の政治家―米寿のお祝いと筆墨」

二〇一四年一二月一三日

塚瀬　進「自著『マンチュリア史研究―『満洲』六〇〇年の社会変容―』について」

孫　江「天野郷三の『南京事件』―一枚の葉書を手がかりとして」

夢と表象―その統括と展望

（研究代表者　荒木　浩、幹事　マルクス・リュッターマン）

〔共同研究員名〕

安東民兒、池田忍、入口敦志、上野勝之、鍛治恵、加藤悦子、河東仁、木村朗子、笹生美貴子、仙海義之、高橋文治、立木宏哉、玉田沙織、林千宏、平野多恵、福島恒徳、藤井由紀子、松薗斉、松本郁代、箕浦尚美、室城秀之、伊東貴之、倉本一宏、早川聞多、榎本渉、郭南燕、丹下暖子、中川真弓

〔海外共同研究員名〕

ヨーク・B・クヴェンツァー、李育娟

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一四年一二月六日

ダシュ・ショバ・ラニ「仏教とジャイナ教における夢の概念と表象」

宮内淳子「宮沢賢治と夢―『銀河鉄道の夜』を中心に―」

おたく文化と戦時下・戦後

（研究代表者　大塚英志、幹事　北浦寛之）

〔共同研究員名〕

浅野龍哉、板倉史明、内田力、大野修一、香川雅信、菊地暁、キム・ジュニアン、木村智哉、嵯峨景子、須藤遙子、鶴見太郎、冨田美香、中川譲、藤岡洋、細馬宏通、牧野守、室井康成、山本忠宏

〔海外共同研究員名〕
秦剛、マーク・スタインバーグ
〔研究発表〕
〈第三回研究会〉
二〇一四年一一月二九日
浅野龍哉「『鉄扇公主』を主題とするまんが創作―アジア的主題の継承と実践」
キム・ジュニアン「田河水泡『人造人間』をめぐって」
大塚英志「アトムは何故『機械化』されたか―戦時下と戦後の結節点としての手塚治虫」
〈第四回研究会〉
二〇一五年一月一七日
内田　力「一九五〇年代歴史紙芝居とその文脈」
室井康成「選挙粛正運動の視覚戦略」
〈第五回研究会〉
「学生・教員参加による日本アニメーション・まんが研究及び教育法をテーマとする共同研究集会」
二〇一五年三月一三日
細馬通宏「研究の紹介と位置づけ、研究上の問題点」
マーク・スタインバーグ「研究の紹介と位置づけ、研究上の問題点」
二〇一五年三月一四日
秦　剛「研究の紹介と位置づけ、研究上の問題点」
于　素秋「研究の紹介と位置づけ、研究上の問題点」
キム・ジュニアン「研究の紹介と位置づけ、研究上の問題点」
呉　新蘭「研究上の関心に基づく報告」
陳　曦子「研究上の関心に基づく報告」
二〇一五年三月一五日
于　智為「研究上の関心に基づく報告」
浅野龍哉「研究上の関心に基づく報告」
金　玟亨「研究上の関心に基づく報告」
王　蕙林「研究上の関心に基づく報告」
劉　啥「研究上の関心に基づく報告」
張　君「研究上の関心に基づく報告」
Edmond Ernest Dit Alban「研究上の関心に基づく報告」
山本忠宏「研究上の関心に基づく報告」
蔡　錦桂「研究上の関心に基づく報告」

昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析
――ザ・タイガースの研究

（研究代表者　磯前順一、幹事　井上章一）

〔共同研究員名〕

浅尾雅俊、飯田健一郎、小野善太郎、黒崎浩行、永岡崇、中村俊夫、藤本憲正、松本清、水内勇太、倉本一宏、細川周平、北浦寛之、光平有希

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一四年一〇月一八日

辻　幸多郎「ザ・タイガース論集の出版現状について」

北浦寛之「ザ・タイガースと映画」

磯前順一「ザ・タイガースと現代思想」

黒崎浩行「データの成形について」

日本の軍事戦略と東アジア社会―日中戦争期を中心として―

（研究代表者　黄　自進、幹事　劉　建輝）

〔共同研究員名〕

相澤淳、浅野豊美、家近亮子、井上寿一、王柯、加藤聖文、黒沢文貴、小菅信子、佐藤卓己、澁谷由里、姜克実、鈴木多聞、田嶋信雄、段瑞聡、戸部良一、波多野澄雄、服部龍二、馬暁華、松浦正孝、松重充浩、劉傑、鹿錫俊

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一四年一〇月一八日

鹿　錫俊「日米交渉期における蔣介石のシナリオ」

澁谷由里「一九三〇～四〇年代の日本における中国軍事史研究―日野開三郎と濱口重国を中心として―」

二〇一四年一〇月一九日

馬　暁華「グローバルヒストリーの視点から見る日中戦争～一九四三年人種関係の再編を軸に～」

〈第四回研究会〉

二〇一四年一二月二〇日

劉　建輝「満州学の構築：近代化という視野から」

王　明珂「一世紀から六世紀にかけての満州における人類の生態およびその歴史的意義」

二〇一四年一二月二一日

田嶋信雄「戦間期日本の『西進』政策と日独防共協定―ユーラシア諜報・謀略協力の展開と挫折―」

松重充浩「一九二〇年代張作霖地方政権による現地統治の

制度的構造と展開実態―奉天省を中心事例として―」

〈第五回研究会〉

二〇一五年二月二一日

段　瑞聡「戦後初期蔣介石と国民政府の対日講話構想」

黒沢文貴「再考・戦後の日本近代史認識―昭和戦前期の『戦争の構造』と『歴史の構造』をめぐって」

二〇一五年二月二二日

姜　克美「台児庄戦役における日本軍の死傷者数」

高　文勝「満州事変前夜における日中関係―『革命外交』と『堅実に行き詰まる』政策―」

日本仏教の比較思想的研究

（研究代表者　末木文美士、幹事　稲賀繁美）

〔共同研究員名〕

阿部仲麻呂、井上克人、魚住孝至、岡本貴久子、冲永宜司、嘉指信雄、坂井祐円、坂本慎一、佐藤弘夫、島薗進、ミシェル・ダルシエ、永井晋、中島隆博、西平直、西村玲、モリー・ヴァラー、シルヴィオ・ヴィータ、藤田正勝、前川健一、吉永進一、米田真理子、阿部泰郎、滝澤修身、ランジャナ・ムコパディヤーヤ、アントン・セビリア、高橋勝幸

〔海外共同研究員名〕

アンナ・アンドレーワ、許祐盛、ジェームズ・マーク・シールズ、鄭瀅

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

「『心身／身心』と『環境』の哲学―東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み―」との合同研究会

二〇一四年一一月二二日

鐘　以江「『教化』から『教育』と『宗教』へ―近世・近代日本における『教』の歴史」

陳　継東「太鼓腹の弥勒は仏教なのか―布袋和尚伝記考」

島薗　進「日本仏教と無常・浮き世」

二〇一四年一一月二三日

西平　直「『無心』の英訳―井筒俊彦の無心理解をめぐって」

藤田正勝「表現と身体―『表現的存在』としての人間」

末木文美士「日本思想史における身体観・環境観の変容」

〈第五回研究会〉

二〇一五年一月一〇日

ランジャナ・ムコパディヤーヤ「日本山妙法寺の『西天開

教』―アジア伝道から世界平和運動へのあゆみ」
滝澤修身「フロイスの見た日本の宗教」

二一世紀一〇年代日本文化の軌道修正：過去の検証と将来への提言

（研究代表者　稲賀繁美、幹事　牛村　圭）

〔共同研究員名〕

今泉宜子、鵜戸聡、大西宏志、岡本光博、小川さやか、小倉紀蔵、鞍田崇、呉孟晋、小崎哲哉、菰田真介、近藤高弘、澤田敬司、白石嘉治、戦暁梅、全美星、多田伊織、千葉慶、張競、テレングト・アイトル、中村和恵、西田雅嗣、西原大輔、二村淳子、波嵯栄ジェニファしょう子、橋本順光、林洋子、範麗雅、平松秀樹、平芳幸浩、藤原貞朗、シルヴィー・ブロッソー、松原知生、クリストフ・マルケ、三原芳秋、本浜秀彦、山中由里子、山本麻友美、與那覇潤、マシュー・ラーキング、李建志、滝澤修身、山田奨治、劉建輝、磯前順一、榎本渉、フレデリック・クレインス、森洋久、王成、長門洋平、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

大橋良介、デンニッツァ・ガブラコヴァ

〔研究発表〕

〈第六回研究会〉

二〇一四年一〇月四日

デンニッツァ・ガブラコヴァ「離島と主権」

韓　敬九「海賊としての倭（寇）と洋夷：東道西器と衛正斥邪の視点から見る和魂洋才の文化受容戦略」

二〇一四年一〇月五日

張　競「内と外から見た日本文学」

万国博覧会と人間の歴史――アジアを中心に

（研究代表者　佐野真由子、幹事　井上章一）

〔共同研究員名〕

石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、鵜飼敦子、江原規由、川口幸也、神田孝治、澤田裕二、寺本敬子、中牧弘允、芳賀徹、林洋子、増山一成、武藤秀太郎、武藤夕佳里、橋爪紳也、稲賀繁美、瀧井一博、ジョン・ブリーン、劉建輝、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

青木信夫、岩田泰、ウィーベ・カウテルト、シビル・ギルモンド、徐蘇斌

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

国際ワークショップ「万国博覧会の歴史と未来」

二〇一四年一〇月四日

喬　兆紅「博覧会事業に関する中日比較研究」

ユク・ヨンス「閉ざされた王国から文明国家へ？――一八九三年シカゴ万博、一九〇〇年パリ万博に展示された世紀末の朝鮮」

ジラルデッリ青木美由紀「万国博覧会のオスマン帝国と日本――『オスマンの建築様式』（一八七三）、『稿本日本帝国美術略史』（一九〇〇）の出版とトルコ国立宮殿局所蔵の日本美術工芸品コレクション」

指定討論者：青木信夫

瀧井一博「岩倉使節団の『万博』体験とその後」

シビル・ギルモンド「一八八五年のニュルンベルク『万国金工博覧会』」

徐　蘇斌「中国における博覧会と博物館の創設」

畑　智子「京都博覧会について」

指定討論者：市川文彦、ウィーベ・カウテルト

二〇一四年一〇月五日

〈特別セッション：大阪万博〉

平野暁臣「いま、大阪万博に学ぶ」

川口幸也「世界の国からこんにちは――万博美術展がみた世界」

座談：平野暁臣、橋爪紳也、林洋子、曹建南

司会：佐野真由子

総合討論

愛・地球博記念公園（長久手市・瀬戸市）見学

二〇一四年一〇月六日

行政から博覧会協会（愛・地球博主催団体）へ出向した方々との討論会

製作受託企業スタッフとの討論会

愛知万博に参画した市民グループとの討論会

〈第四回研究会〉

二〇一四年一二月二〇日

論集寄稿原稿の概要発表

論集編集方針および次年度の活動について

二〇一四年一二月二一日

論集寄稿原稿の概要発表

論集編集方針および次年度の活動について

植民地帝国日本における知と権力

（研究代表者　松田利彦、幹事　瀧井一博）

〔共同研究員名〕

飯島渉、岡崎まゆみ、小野容照、加藤聖文、加藤道也、川瀬貴也、河原林直人、栗原純、洪宗郁、愼蒼健、通堂あゆみ、長沢一恵、春山明哲、松田吉郎、宮崎聖子、やまだあつし、李昇燁、中生勝美、稲賀繁美、劉建輝

〔海外共同研究員名〕

陳姃湲、山本浄邦、李炯植

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一四年一〇月三日

加藤道也「植民地官僚の統治認識―時永浦三と吉村源太郎を手掛かりに」

小野容照「メディア経験の連鎖―竹内録之助と朝鮮語雑誌」

李　炯植「敗戦後帰還した朝鮮総督府官僚の植民地認識」

二〇一四年一〇月四日

愼　蒼健「〈知と権力〉とはどのような問題なのか―植民地衛生学に焦点をあてて」

春山明哲「岡松参太郎と台湾旧慣調査―研究回顧と『岡松文書』以後の展望」

何　義麟「植民地台湾における台湾人有力者の対日協力―許丙の経歴を中心にして」

宋　炳巻「崔虎鎮とその時代」

〈第四回研究会〉

二〇一四年一二月七日

洪　宗郁「李清源の歴史研究と政治活動」

やまだあつし「札幌農学校からの中等農業学校への就職について―台湾への技術者送り出し経路という観点から―」

松田利彦「韓国・法院記録保存所所蔵、植民地期民事裁判判決原本について」

長沢一恵「植民地における近代開発をめぐる諸相―朝鮮における鉱業裁判を手がかりに―」

加藤聖文「満州国の官吏養成と大同学院」

〈第五回研究会〉

二〇一五年二月一五日

顔　杏如「風景と知識―植民地台湾における植物調査と風景叙述」

栗原　純「台湾総督府の阿片政策―治療をめぐる諸問題―」

鄭　駿永「『犯罪者』の身体、朝鮮人の『精神』―京城帝大精神科学教室の西大門刑務所研究」

「心身／身心」と「環境」の哲学―東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み―

（研究代表者　伊東貴之、幹事　榎本　渉）

〔共同研究員名〕

青木隆、新井菜穂子、井上厚史、魚住孝至、恩田裕正、垣内景子、片岡龍、橋川智昭、権純哲、黒住眞、桑子敏雄、河野哲也、小島毅、鍾以江、鈴木貞美、関智英、銭国紅、高橋博巳、竹村英二、竹村民郎、田尻祐一郎、陳継東、陳健成、土田健次郎、永冨青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、水口拓寿、横手裕、李梁、末木文美士、ジョン・ブリーン、劉建輝、フレデリック・クレインス、山村奨

〔海外共同研究員名〕

黄海玉、フレデリック・ジラール、張翔、手島崇裕

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

「日本仏教の比較思想的研究」との合同研究会

二〇一四年一一月二二日

鐘　以江「『教化』から『教育』と『宗教』へ―近世・近代日本における『教』の歴史」

陳　継東「太鼓腹の弥勒は仏教なのか―布袋和尚伝記考」

島薗　進「日本仏教と無常・浮き世」

二〇一四年一一月二三日

西平　直「『無心』の英訳―井筒俊彦の無心理解をめぐって」

藤田正勝「表現と身体―『表現的存在』としての人間」

末木文美士「日本思想史における身体観・環境観の変容」

マンガ・アニメで日本研究

（研究代表者　山田　奨治、幹事　荒木　浩）

〔共同研究員名〕

飯倉義之、石田佐恵子、伊藤慎吾、伊藤遊、岩井茂樹、岡本健、金水敏、白石さや、西村大志、安井眞奈美、山中千恵、山本冴里、油井清光、横濱雄二、吉村和真、谷川建司、北浦寛之、宮崎康子、朴順愛、小泉友則

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一四年一〇月一一日
鷲宮神社、大酉茶屋他見学
二〇一四年一〇月一二日
大宮ソニックシティ（さいたま市）にて「アニ玉祭」視察
〈第四回研究会〉
二〇一四年一二月一三日
作品検討「精霊の守人」
紹介者：山本冴里
二〇一四年一二月一四日
これまでの研究会を踏まえた討論
〈第五回研究会〉
二〇一五年三月二一日
作品検討「のらくろ」
紹介者：金水　敏
二〇一五年三月二二日
成果出版等についての討論

新大陸の日系移民の歴史と文化

（研究代表者　細川周平、幹事　瀧井一博）
〔共同研究員名〕
赤木妙子、アンジェロ・イシ、粂井輝子、栗山新也、小嶋茂、佐々木剛二、スエヨシ・アナ、フェリッペ・アウグスト・ソアレス・モッタ、高木（北山）眞理子、滝田祥子、根川幸男、日比嘉高、野村（一政）史織、松岡秀明、水野真理子、物部ひろみ、森本豊富、守屋貴嗣、守屋友江、柳田利夫、吉田裕美、早稲田みな子、高橋勝幸
〔海外共同研究員名〕
エドワード・マック、森幸一
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉
二〇一四年一〇月一一日
野村（一政）史織「第一次世界大戦期におけるアメリカ化と集団像の構築：東欧系移民の日系移民の比較から見えてくるもの」
守屋貴嗣「日比嘉高『ジャパニーズ・アメリカ』書評」
早稲田みな子「隠れた遺産：第二次世界大戦中の日系人収容所における日本伝統芸能」
二〇一四年一〇月一二日
日比嘉高「移民・帝国・表象――一九三二年のロサンゼルス・オリンピックと田中英光『オリンポスの果実』」

〈第五回研究会〉
二〇一五年一月一一日
物部ひろみ「常磐ハワイアンセンターについて」
早稲田みな子「ハワイ音楽と日系アメリカ人」
二〇一五年一月一二日
スエヨシ・アナ「日本からペルーへ帰国したデカセギ労働者の二世がリマの日系人社会に与える影響」
佐々木剛二「ブラジル日本移民の政治、知識、徳：移民知識人をめぐる歴史民族誌」
赤木妙子「〈歴史〉を紡ぐということ―チリ移民一世の事例から―」

日本大衆文化とナショナリズム
（研究代表者　朴　順愛、幹事　山田奨治）
〔共同研究員名〕
市川孝一、須藤遙子、全美星、竹内幸絵、土屋礼子、寺沢正晴、油井清光、尹健次、吉田則昭、谷川建司、朴美貞
〔研究発表〕
〈第四回研究会〉
二〇一四年一〇月一八日
申　昌浩「宮城道雄と庶民的ナショナリズム」
寺沢正晴「戦後日本のスポーツ文化とナショナリズム」
二〇一四年一〇月一九日
吉田則昭「一九五〇年代におけるソビエト文化受容―文化運動と日本的なものとの結びつきを中心に―」
〈第五回研究会〉
二〇一四年一二月六日
市川孝一「韓流ブームから嫌韓ムードへ」
二〇一四年一二月七日
土屋礼子「週刊誌に見る戦後日本のナショナリズム～中間報告」
油井清光「アニメをめぐるグローバル化とナショナルなものとのせめぎあい」
〈第六回研究会〉
二〇一五年一月二四日
尹　健次「在日文化と民族意識」
朴　美貞「孫基禎とマラソン」
二〇一五年一月二五日
全　美星「明治文学にみるナショナリズム」
（文責：研究協力課）